

2025（令和7）年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1492600620	事業の開始年月日	平成26年8月1日
		指定年月日	平成26年8月1日
法人名	株式会社 メディカルライフケア		
事業所名	グループホーム幸せふくろう並木		
所在地	(252-0228) 神奈川県相模原市中央区並木1-4-6		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計	18名
		ユニット数	2 ユニット
自己評価作成日	令和8年2月9日	評価結果 市町村受理日	令和8年5月19日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

保育園が併設しているため、園児との交流など力を入れております。保育園と一体となり、ハロウィンには仮装した園児がご利用者様のところへ来て小さなバスケットにお菓子を入れてもらったり、親睦交流を深めています。日々のレクリエーションでは音楽体操やおやつレクなどに取り組んでおります。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鵜沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和8年3月15日	評価機関 評価決定日	令和8年5月8日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

JR横浜線「淵野辺」駅、またはJR相模線「上溝」駅から共にバスで約5分、本弘寺に面した閑静な住宅街に立地しています。

<優れている点>

運営理念「みんなが笑顔で その人らしく！」を掲げ、利用者一人ひとりの思いを尊重し、温もりのある生活を共に築いていくことを追求しています。この指針を具現化するため、併設保育園の園児と共通の玄関を利用し、中庭で遊ぶ子供たちの姿や声を日常的に取り入れることで、利用者が自然と笑顔になり、心が和む環境づくりに注力しています。安全な暮らしを支える土台として、医師による定期的な診察に加え、担当看護師への朝夕の体調報告と迅速な指示系統を確立しているほか、個々の生活パターンとヒヤリハットのデータを分析し、事故リスクを未然に防ぐ仕組み作りを進めています。さらに生産性向上推進体制への取り組みを通じて職員の就業環境を整え、心身ともにゆとりを持って質の高いケアを継続できる組織体制を整えています。

<工夫点>

入浴のない日曜日の時間を有効に活用し、利用者の希望に沿った外出支援や外気浴、買い物への同行を実践することで、生活に彩りと変化をもたらす工夫をしています。手伝いを希望する利用者には、それぞれの得意分野を活かした役割を依頼し、感謝を伝え合う関係性を築くことで、互いに支え合う「家庭生活のような介護」を具現化しています。また、職員が手作りした字合わせパズルなどの脳トレを日常に取り入れ、楽しみながら認知機能の維持を図る機会を創出しています。こうした日々の細やかな時間の使い方や手作りの支援ツールを通じて、利用者が主体的かつ活動的に過ごせる環境づくりを追求しています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	12～16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	17～23
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	グループホーム幸せふくろう並木
ユニット名	幸せの森

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所独自の理念を掲げている。利用者様の想いを尊重しその方らしく、笑顔あふれる温もりある生活を職員ともに共有し実践しています。	「利用者と職員が家族のような関係になって一緒に生活する」ことを理念に掲げています。支援にあたっては、親密な関係性のなかにも節度を保ち、言葉遣いにおいても敬意と親しみやすさの均衡を保てるよう取り組んでいます。日々の関わりでは、常に利用者の気持ちを優先することを基本とし、業務優先にならないよう心がけています。こうした意識を職員間で共有し、一人ひとりの尊厳を守りながら、安心感を持って生活できる環境づくりにつなげています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	利用者とともに散歩や外出を行った際、近隣の方との挨拶は交わしているが、地域交流とまでは実施できていない。	同じ建物に同居している保育園の子供たちとの関わりが、利用者の大きな喜びとなっています。中庭で遊ぶ姿や元気な声に触れたり、衣類掛けに並ぶ小さな服を眺めたりするだけでも、利用者の心が温まる機会となっています。現在は自治会や民生委員との関係性をさらに深めていくことを課題としています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	そのような機会は設けていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営状況の報告、事故の内容などの報告を行い情報交換を行っている。	運営推進会議においては、花見、節句、敬老会といった季節ごとの行事や、並木小学校への避難訓練など、事業所の活動状況を継続的に報告しています。会議の場では、離棟や転倒などの事故報告とともに、再発防止策についても詳細を共有し、検討内容を記録した議事録を作成しています。	幅広い層が参加しやすい場づくりに向けた検討が望まれます。多様な視点を運営に活かすため、周知の方法や開催のあり方を工夫していくことが期待されます。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	事故報告や運営に関する相談など、都度連絡を取り協力関係を築いている。	介護度更新や区分変更などの手続きに際し、相模原市の高齢・障害課と連絡を取り合う体制を整えています。昨年には福祉基盤課による運営指導を受け、適切な事業運営に向けた確認を行っています。また、光が丘地域包括支援センターとは入居状況などの情報交換を継続しており、地域における支援ネットワークの一員として機能するよう取り組んでいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	法人全体として身体拘束廃止委員会で身体拘束ゼロにケに取り組み身体拘束のないケアに取り組んでいる。	年間計画に従って身体拘束適正化委員会を開催しています。職員研修では、グループ会社が開発したスマートフォンで受講可能なeラーニングシステムを導入し、知識の習得に努めています。薬物による行動制限、いわゆるドラッグロックを防ぐため、入眠剤の使用については医師の処方に従う体制を整えています。また、家族に対しても身体拘束に関する情報を提供し、理解を得られるよう働きかけています。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	身体拘束同様研修を受け、虐待を疑うような行為があればすぐに管理者へ報告が上がるよう指導している。	年間計画に従って虐待防止委員会を開催しています。職員研修では、グループ会社が開発したスマートフォンで受講可能なeラーニングシステムを導入し、虐待防止に関する知識の習得と意識の向上に努めています。また、職員の体調不良やストレスに起因するネグレクトを防止するため、休暇や休憩を確実に取得できるよう環境を整えています。管理者が勤務状況を把握し、無理なシフトが生じないようにフォローに入る体制を構築しています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	機会がなく、今後の課題です。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	一方的に説明し説得するのではなく、十分な説明を心掛け納得、理解していただけるよう努めている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族からの意見・要望、心配されていることを定期的に来所される家族へは聞き取りを行いサービスの質の向上に努めている。	「幸せふくろう便」やインスタグラムを通じて、事業所内の日常や行事の様子を家族へ伝えていきます。インスタグラムによる発信は家族に喜ばれており、発信回数が減少した際には家族から寂しいとの声が寄せられるほど、日々の様子を共有する大切な手段となっています。また、面談の機会を設けて家族の心配事や希望を聞き取る体制を整えています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	各ユニット会議、申し送り時に職員の意見、要望、提案を聞き、必要であれば法人全体の会議でお話し合い反映できるように努めている。	職員の発案により数種類の字合わせパズルを独自に作成し、日々の活動に取り入れています。これらは難易度の高い内容を含んでいますが、利用者が楽しみながら取り組めるよう工夫しており、認知機能の維持や活性化を図る機会として役立っています。また、職員が利用者と共に制作した壁面の季節風景を表現した貼り絵や切り絵は、完成度の高い仕上がりとなっており、共有空間を彩る装飾として活用しています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	人事考課面接で職員個々の努力や実績の評価を行っている。資格取得支援、健康診断、就業環境の整備は法人全体で行っている。	勤務シフトを作成する際、早番や遅番、夜勤などの時間帯について職員の意向を取り入れています。また、間接業務を合理化することで直接的な介護の質を高めることを目的とした「生産性向上推進」の取り組みを開始しています。法人内の事業所間では、職員の勤務状況に応じて相互に支援し合える体制を構築しています。	
13	10	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	事業所においては介護職歴が長く信頼のできる職員にOJTを任せている。法定研修、外部研修はオンラインにて実施し参加を促し実践にいかせるようにしている。	年間計画に従い、グループ企業が開発したeラーニングを活用して9項目にわたる法定研修や各種研修を実施しています。研修の受講や資格取得の支援制度については、正規職員だけでなくパート職員も同等の扱いとしており、組織全体で専門性の向上を図っています。職員の採用に際しては、知識や技術のみならず人間性を最も重視する方針を掲げています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	そのような取り組みは行っていない。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ケアマネを中心とし利用者とコミュニケーションをとりながら要望や不安な気持ちなどに寄り添えるよう傾聴を行い信頼関係の構築に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	利用者同様、ケアマネを中心とし、ご家族の言葉を傾聴し、早急に対応することは早急に対応し、時間をかけて行うことは労力を惜しまず対応するよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	何が今必要な支援であるか、ご本人、家族と密にコミュニケーションをとり、ケアマネを中心に必要な支援の見極めに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	職員は常に理念である「家族の絆、家族の愛、家族の感動」を念頭にケアの実践に努めている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族の面会は積極的に受け入れている。利用者と家族の絆を絶やさないよう努めている		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	お手紙やリモート面会など遠方にいる親せきや友人など関係が途切れないようできることはお手伝いをしている。	感染症の流行に伴い家族以外の面会機会は減少していますが、利用者がこれまでの生活習慣を維持できるよう支援しています。入居前から新聞購読を習慣としている人には、引き続き馴染みの新聞を購読できるよう環境を整えています。また、コーヒーを好む人にはコーヒータイムを設け、歌を好む人には職員が動画配信サイトで好みの曲を探して共に鑑賞するなど、個人の嗜好を尊重した時間を作っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	日常のラジオ体操やレクリエーション、お手伝いを通し、利用者が関わり合いを持てるよう、席の配置やレクリエーションの内容などに配慮し支援を務めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退去後も相談や困ったこと、些細な子でもご相談してくださいとお声を必ずおかけしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人本位に寄り添い意思の尊重を務めている	意思を伝えることができる利用者からは直接話を聴き、意思表示が困難な場合は家族から希望する暮らし方を聞き取ることで、個々の思いを尊重した支援に努めています。把握した意向や要望は全職員で共有する仕組みを整え、日々の生活支援に反映させています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族から情報や支援を受けておられたときのサービス提供内容の把握、情報共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	定期的なアセスメント、ユニット会議での個別カンファレンスにて現状の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ユニット会議や、居宅担当者が集めた情報、また往診医の意見も含め計画作成者と共有し介護計画を作成している。	短期目標は3ヶ月ごと、長期目標は6ヶ月ごとに振り返りを実施しています。計画の作成や更新に際しては、現場職員の意見を取り入れるとともに、面会時や電話を通じて家族からの意向も聞き取っています。また、医師や看護師の意見も反映させ、利用者の状態変化に応じて必要があればケアプランを変更する体制を整えています。見直した内容はユニット会議を通じて職員間で共有し、日々の支援に活かしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の記録にケアの実践結果などをお残し、申し送りについて築きや工夫を記録に残すとともに情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	既存のサービスに捉われず、その人に合った支援、サービス提供に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	運営推進会議などで地域の方や包括からの情報共有を行い、何ができるかを考え地域貢献できるよう取り組んでいる。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	協力医の往診や訪問看護を月に2回受けている。訪問歯科や心のホスピタルなど適切な医療を受けられる体制を整えている。	利用者全員が協力医療機関の内科および歯科の医師による往診を受けています。看護師からは、毎日朝夕に体調確認の問い合わせ連絡が入る体制を整えています。医師による診療結果や医療情報は、往診報告書ファイルに記録して職員間で共有し、日々の健康管理に役立てています。専門的な医療機関については、必要や希望に応じて受診を支援しています。状況に応じて家族と相談を行い、精神科の受診につなげた事例もあります。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	協力医の看護師から毎朝、毎夕状態確認の連絡がある。その日の変化や異常など細かく関してもらい、何かあればすぐに対応・指示がもらえる体制を作りを行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との関係づくりはできていない。今後の課題		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時「重症化及び看取りに関する指針」「終末期及び急変時の延命医療」についての説明を行い同意を得ている。	急変時や看取りに関するマニュアルおよび方針を整備し、それらに基づいて対応する体制を整えています。看取り介護の開始にあたっては、医師による診断と家族の意向を個別に確認したうえで決定する手順を遵守しています。職員は、グループ会社が開発したeラーニングを活用して看取り介護に関する研修を受講しており、必要な知識の習得に努めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	法定研修などで学び、その他救急対応が起きた時の再発予防も兼ねて、実践手順の見直しを行っている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	事業所内で災害の設定や夜間帯の設定など避難訓練は年2回実施している。地域との協力体制は今後の課題。	消防署の指導のもと、夜間を想定した避難訓練を実施しています。訓練ではエレベーターが使用できない状況を想定し、1階と2階の職員が連携して階段を使用した誘導手順を確認しています。緊急時の連絡網を整備し、迅速に報告や共有ができる体制を整えています。備蓄品については、数日分の食料を確保しており、主食となる米も一定量を備えています。	自治会や近隣住民との連携を強化するため、運営推進会議等を活用した働きかけが望まれます。有事の際に協力し合える関係性を目指し、相互理解を深めるための検討が期待されます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	法定研修で接遇についての研修は受けている。ユニット会議の議題にもあげ、常に接遇に対して心掛ける。	利用者一人ひとりを大切にする意識を職員全員で共有し、日々の支援にあたっています。名前の呼びかけは「さん」付けを基本としています。接遇に関する研修内容は、欠席者も含め全職員が確認できるよう議事録を通して共有し、共通の認識を持って関わる体制を整えています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	自己決定、意思の尊重を重視し、利用者とのコミュニケーションや接遇、傾聴に力を入れている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	押しつけの介護ではなく、一人ひとりの自己決定意思に耳を傾け支援を行うよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	本人の自己決定を尊重するよう支援している。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	一緒に作ったり、できる手伝いを積極的に声をかけさせてもらい、できた喜びを味わい、みんなとおいしく召し上がっていただくよう心掛けている。	利用者が準備や後片付けを自身の役割として担うことで、生活の継続性を実感できるよう取り組んでいます。入居前から使い慣れた茶碗や箸、コップなどを継続して使用し、安心して食事ができる環境を整えています。嚥下機能の低下などの状態変化に応じて、ミキサー食や刻み食を提供するとともに、アレルギーや苦手な食材にも配慮した個別対応を行っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事、水分摂取量を記録に残し、体重の増減も含めクリニックに状態報告を行い必要な支援を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、一人ひとりに口腔ケアの声掛けを行い、自力で行われる方、介助が必要な方双方の支援を行っている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	定時、適時でのお声かけ、トイレ誘導を行っている。	職員が利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、個々のリズムに合わせたタイミングで支援を行っています。介助に対して拒否がある利用者には、本人の様子を見守りながら時間を置くなど、無理のない形での介助に努めています。夜間はリハビリパンツとパッドを使用し、排泄時には職員が付き添って見守りを実施しています。また、入居時にリハビリパンツを使用していた利用者が、布パンツでの生活に移行できた事例もあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排便コントロールに関してはクリニック医師、看護師に相談し指示を受けている。運動、水分摂取量は積極的に声をかけを行っている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	施設内で曜日や時間については決めている	週2回、午前中の時間帯に実施しています。身体状況に合わせて、浴槽をまたぐことが難しい人には1階のリフト浴を活用し、安全に配慮した環境を整えています。季節に合わせた楽しみとして、職員の自宅で収穫された柚子を浮かべた柚子湯を実施しており、利用者からも好評を得ています。入浴中は職員と1対1で会話を交わすなど、リラックスして過ごせる時間となるよう取り組んでいます。入浴に対して拒否がある人には、本人の気持ちに寄り添った声かけを行うなど、個別の状況に応じた工夫を継続しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	一人ひとりの生活リズムに合わせた対応を心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬情の確認、申し送りにて変化などを職員と共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	出来ることはしていただき、お手伝いなど役割を持っていただけるよう努めている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天気の良い日は散歩に行き、地域の方にお会いした時は挨拶をかわしている。近くのスーパーに家族が付き添いや職員同行で出かけている。	天候が良い日には職員と共に桜並木や遊歩道へ散歩に出かけ、地域の人との交流や自然に触れる機会を確保しています。近隣のスーパーへ職員と一緒に外出し、おやつや日用品の買い物を楽しむ場面も大切にしています。また、家族と専門医を受診した後に外食を楽しむ利用者もいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	現金を預けてはいない。希望に応じて買い物代行を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人の意思を尊重するよう支援している。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	リビングに季節の壁面制作を飾り、季節感を採り入れ、窓を定期的に開閉し空気の入替えを行い、気持ちよく過ごしていただけるよう努めている。	玄関に併設保育園の園児による作品を飾り、フロアには利用者の作品を掲示することで、表現活動に触れられる環境を整えています。日当たりが良く暖かいフロアでは、リラックスできる音楽を流し、利用者同士の交流や活動を楽しめるよう配慮しています。日曜日の天気の良い日には、玄関のエントランスで日光浴を兼ねたティータイムを設けています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	気の合う方と席の近くしたり、利用者同士が心地よい適度な距離感を心掛け、お互いに気持ちよく過ごせるよう努める。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	馴染みの家具などがあれば家族にお餅いただき、使用している。ご家族の写真や思い出のあるものは本人の意思を確認しておくようにしている。	明るい日差しが入る環境のなかで、利用者が自分らしく過ごせるよう支援しています。入居の際には、本人が使い慣れた家具を持ち込めるよう整えています。安全面に配慮し、転倒の恐れがある物や割れ物の持ち込みは避けるよう調整しています。居室内には家族の写真や、職員と共に制作した季節の創作品を飾り、視覚的にも心地よさを感じられる空間づくりに取り組んでいます。こうした愛着のある品々や日々の活動の成果を身近に置くことで、生活の継続性を保ち、利用者が精神的に安定して過ごせる環境づくりにつなげています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	調理、洗濯物たたみ、掃除などできることはお手伝いをしていただき、少しでも自立した生活が送れるよう努めている。トイレなど分かりやすいよう大きく表示している。		

事業所名	グループホーム幸せふくろう並木
ユニット名	幸せの泉

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所独自の理念を掲げている。利用者様の想いを尊重しその方らしく、笑顔あふれる温もりある生活を職員ともに共有し実践しています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	利用者とともに散歩や外出を行った際、近隣の方との挨拶は交わしているが、地域交流とまでは実施できていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	そのような機会は設けていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営状況の報告、事故の内容などの報告を行い情報交換を行っている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	事故報告や運営に関する相談など、都度連絡を取り協力関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	法人全体として身体拘束廃止委員会で身体拘束ゼロにケに取り組み身体拘束のないケアに取り組んでいる。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	身体拘束同様研修を受け、虐待を疑うような行為があればすぐに管理者へ報告が上がるよう指導している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	機会がなく、今後の課題です。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	一方的に説明し説得するのではなく、十分な説明を心掛け納得、理解していただけるよう努めている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族からの意見・要望、心配されていることを定期的に来所される家族へは聞き取りを行いサービスの質の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	各ユニット会議、申し送り時に職員の意見、要望、提案を聞き、必要であれば法人全体の会議でお話し合い反映できるよう努めている。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	人事考課面接で職員個々の努力や実績の評価を行っている。資格取得支援、健康診断、就業環境の整備は法人全体で行っている。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	事業所においては介護職歴が長く信頼のできる職員にOJTを任せている。法定研修、外部研修はオンラインにて実施し参加を促し実践にいかせるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	そのような取り組みは行っていない。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ケアマネを中心とし利用者とコミュニケーションをとりながら要望や不安な気持ちなどに寄り添えるよう傾聴を行い信頼関係の構築に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	利用者同様、ケアマネを中心とし、ご家族の言葉を傾聴し、早急に応えられることは早急に対応し、時間をかけて行うことは労力を惜しまず対応するよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	何が今必要な支援であるか、ご本人、家族と密にコミュニケーションをとり、ケアマネを中心に必要な支援の見極めに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	職員は常に理念である「家族の絆、家族の愛、家族の感動」を念頭にケアの実践に努めている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族の面会は積極的に受け入れている。利用者と家族の絆を絶やさないうよう努めている		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	お手紙やリモート面会など遠方にいる親せきや友人など関係が途切れないようできることはお手伝いをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	日常のラジオ体操やレクリエーション、お手伝いを通し、利用者が関わり合いを持てるよう、席の配置やレクリエーションの内容などに配慮し支援を務めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退去後も相談や困ったこと、些細な子でもご相談してくださいとお声を必ずおかけしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人本位に寄り添い意思の尊重を務めている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族から情報や支援を受けておられたときのサービス提供内容の把握、情報共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	定期的なアセスメント、ユニット会議での個別カンファレンスにて現状の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ユニット会議や、居宅担当者が集めた情報、また往診医の意見も含め計画作成者と共有し介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の記録にケアの実践結果などをお残し、申し送りについて築きや工夫を記録に残すとともに情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	既存のサービスに捉われず、その人に合った支援、サービス提供に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	運営推進会議などで地域の方や包括からの情報共有を行い、何ができるかを考え地域貢献できるよう取り組んでいる。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	協力医の往診や訪問看護を月に2回受けている。訪問歯科や心のホスピタルなど適切な医療を受けられる体制を整えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	協力医の看護師から毎朝、毎夕状態確認の連絡がある。その日の変化や異常など細かく関してもらい、何かあればすぐに対応・指示がもらえる体制を作りを行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との関係づくりはできていない。今後の課題		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時「重症化及び看取りに関する指針」「終末期及び急変時の延命医療」についての説明を行い同意を得ている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	法定研修などで学び、その他救急対応が起きた時の再発予防も兼ねて、実践手順の見直しを行っている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	事業所内で災害の設定や夜間帯の設定など避難訓練は年2回実施している。地域との協力体制は今後の課題。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	法定研修で接遇についての研修は受けている。ユニット会議の議題にもあげ、常に接遇に対して心掛ける。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	自己決定、意思の尊重を重視し、利用者とのコミュニケーションや接遇、傾聴に力を入れている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	押しつけの介護ではなく、一人ひとりの自己決定意思に耳を傾け支援を行うよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	本人の自己決定を尊重するよう支援している。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	一緒に作ったり、できる手伝いを積極的に声をかけさせてもらい、できた喜びを味わい、みんなとおいしく召し上がっていただくよう心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事、水分摂取量を記録に残し、体重の増減も含めクリニックに状態報告を行い必要な支援を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、一人ひとりに口腔ケアの声掛けを行い、自力で行われる方、介助が必要な方双方の支援を行っている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	定時、適時でのお声かけ、トイレ誘導を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排便コントロールに関してはクリニック医師、看護師に相談し指示を受けている。運動、水分摂取量は積極的に声をかけを行っている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	施設側で曜日や時間については決めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	一人ひとりの生活リズムに合わせた対応を心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬情の確認、申し送りにて変化などを職員と共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	出来ることはしていただき、お手伝いなど役割を持っていただけるよう努めている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天気の良い日は散歩に行き、地域の方にお会いした時は挨拶をかわしている。近くのスーパーに家族が付き添いや職員同行で出かけている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	現金を預けてはいない。希望に応じて買い物代行を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人の意思を尊重するよう支援している。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	リビングに季節の壁面制作を飾り、季節感を採り入れ、窓を定期的の開閉し空気の入替えを行い、気持ちよく過ごしていただけるよう努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	気の合う方と席の近くしたり、利用者同士が心地よい適度な距離感を心掛け、お互いに気持ちよく過ごせるように努める。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	馴染みの家具などがあれば家族にお餅いただき、使用している。ご家族の写真や思い出のあるものは本人の意思を確認しておくようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	調理、洗濯物たたみ、掃除などできることはお手伝いをしていただき、少しでも自立した生活が送れるよう努めている。トイレなど分かりやすいよう大きく表示している。		

2025年度

事業所名 グループホーム 幸せふくろう並木
作成日： 2026 年 5月 15日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		運営推進会議を開催するも、家族や包括からの参加が少ない	家族・地域の参加を増やす	平日に開催していたが、月末の土日改正に変更し、家族の参加率を増やす取り組みをする。前回の案内で次回の開催時期も連絡済み	6ヶ月
2		幅広い層が参加しやすい場所の提供ができない。	外部ボランティアや保育団との交流の機会を増やす。	相模原市のボランティアセンターに登録し、定期的な活動の場所を作る。季節の行事の保育園の子供達を招く	6ヶ月